



今家人大

俳諧増補新六百題

栗菴宇山

一事菴史聚

編枝

八朔

八朔や小舟のふはりのりもすのり

^上乙 瓢

八朔は桶をたぬ匠者のり

秋 松

立秋

楓も葉も先秋のりもすのり

^三の 水

さねもや源中るのりもすのり

字 水

好まや外すす葉のりもすのり

口

立秋とすすすのりもすのり

口

秋とすすすのりもすのり

山

立秋や若くはすのりもすのり

香

初秋

秋をこころや秋の月夕のそよ
 ねのこころすゝめあきの山の上
 風はひかりのそよこころのま
 秋はやうとくを極の境こころ
 好まぬ影なきはひかりのま
 立木もかたしつゆのききそよ
 筆ふりてさよふ秋をまよひり
 初秋のかりなきもく忍たまけ
 初秋のそよふややのちきれり
 こころの秋の四つひかりのま
 れ秋は海をひかりとまよふ
 つきまよふ秋のそよひかり

情
月
味
華
江
宇
然
瓦
草
山

今朝の秋

残暑

今朝の秋
 秋のそよふややのちきれり
 こころの秋の四つひかりのま
 れ秋は海をひかりとまよふ
 つきまよふ秋のそよひかり

白
桂
十
吹
畏
可
翠
竹
東
子
蛙
空

初涼

秋の蟬

蟬の別

雲

明けあきてあきたすーし橋のしん
 又成を四のまーをすすー小葉柱
 さう約のぬまの登之や林の樹
 約のぬれも巧く不白ぬ秋の樹
 先約てて床て又の樹のふりか
 別さくと相ゆふや樹中入るうら
 聖のすふたもあさくくまのて
 あき登やあきうけてけの暮の人
 明くま子を唱よるれ登のま
 そが戸やまもく登りまるとり
 う登や人もまあも表あまき
 花ゆつるかま橋を登り玉

竹全
 乙和
 紫住
 宇山
 梅希
 糸子
 空山
 十花
 尊盛
 乙類

霧

朝露湯

花火

水ゆりぬはゆきまー青うら
 霞うりーしーまをれまのね
 霧のゆりまーほくまのあま
 お替をすすりまや 雲の中
 霧まやけり戸明れハ 湯白ふ
 二向きりのさーして雲吹本の雪
 夕顔の汁のああんやぬ葉の湯
 子娘まをいれをさうてぬ葉の湯
 舞子まをいれ付くぬ 葉の湯
 月よーとつふ人のあまきま火う神
 登まや衣まをりぬまをりま
 登りぬ寸まをりぬまをりま

可成
 里曉
 素水
 千飯
 紫住
 白飯
 宇山
 三馬
 尾丈
 十花
 旭扇

朝顔

朝顔の花を柳の木の影に
映さずともあはれなる
朝顔の花は咲きし頃
あまのこころをなぐさ
むるに似たりと云ふ
朝顔の花は咲きし頃
あまのこころをなぐさ
むるに似たりと云ふ

朝 顔
柳 山
花 影
映 さ ず
あ は れ
な る
朝 顔
の 花
は 咲
き し
頃
あ ま
の こ
こ ろ
を な
ぐ さ
む る
に 似
た り
と 云
ふ

藤袴

藤袴の花は赤い花
藤袴の花は赤い花
藤袴の花は赤い花
藤袴の花は赤い花
藤袴の花は赤い花
藤袴の花は赤い花
藤袴の花は赤い花
藤袴の花は赤い花
藤袴の花は赤い花
藤袴の花は赤い花

藤 袴
花 影
映 さ ず
あ は れ
な る
朝 顔
の 花
は 咲
き し
頃
あ ま
の こ
こ ろ
を な
ぐ さ
む る
に 似
た り
と 云
ふ

蘭

蘭の花は赤い花
蘭の花は赤い花
蘭の花は赤い花
蘭の花は赤い花
蘭の花は赤い花
蘭の花は赤い花
蘭の花は赤い花
蘭の花は赤い花
蘭の花は赤い花
蘭の花は赤い花

蘭 花
花 影
映 さ ず
あ は れ
な る
朝 顔
の 花
は 咲
き し
頃
あ ま
の こ
こ ろ
を な
ぐ さ
む る
に 似
た り
と 云
ふ

秋海棠

暮遠ふや秋海棠の花のし
るわきりけり花や秋海棠
垣根の秋海棠の影を映ひ

吳山
桂葉
影を映ひ

蓮の實飛

蓮の實や俗に居あつら飛を
蓮の實の飛者少くやけり
蓮の實の飛やこれくら風を

吳山
桂葉
影を映ひ

蓮の實は飛影ひや花を
蓮の實は飛影ひや花を
蓮の實は飛影ひや花を

吳山
桂葉
影を映ひ

秋の聲

秋の聲は秋の聲は秋の聲
秋の聲は秋の聲は秋の聲
秋の聲は秋の聲は秋の聲

吳山
桂葉
影を映ひ

夕顔

夕顔の花は夕顔の花は夕顔
夕顔の花は夕顔の花は夕顔
夕顔の花は夕顔の花は夕顔

湘山
南長
中山

糸瓜

糸瓜の影は糸瓜の影は糸瓜
糸瓜の影は糸瓜の影は糸瓜
糸瓜の影は糸瓜の影は糸瓜

糸瓜
糸瓜
糸瓜

芭蕉

芭蕉の影は芭蕉の影は芭蕉
芭蕉の影は芭蕉の影は芭蕉
芭蕉の影は芭蕉の影は芭蕉

芭蕉
芭蕉
芭蕉

草の花

草の花は草の花は草の花は
草の花は草の花は草の花は
草の花は草の花は草の花は

草の花
草の花
草の花

花野

室わーと茶く時柳や草のさ
人のまぬりはりりもふー草の花
砂踏て過る橋あり花野一
夕陽のささつと眼まを玉取れ
善くくし所をくしるを種
今由さ色とも見えぬを種
嘆を空より中一平持た多平なり
紫藤を時摘あさされて種
取ら夜平一平橋身は種
静けや竹名りのうち流石さめ
紙のそさそ一もく竹や葉種
あゆみれ平皆来りれき種

芥 南 橘 素 素 竹 月 之 竹 竹
甫 山 野 水 水 園 車 山 夜

鶏頭

稲の花

早稲 番椒

山の麓竹うけをれも種
橋の石噴かたなりりわり種
人の背もともは花々種
晴風のそさそふふや種
悉く穿平一平橋身は種
荷君もささ橋のふや種
早稲のま竹名りや種
中くふ種りちりめや種
そまいもやささ種
七冬の木まちささ種
竹の平一平橋身は種
種めを種さめて種

昔 下 重 一 梳 煎 一 木 松 一 木 木 木 木
山 月 河 石 仙 年 野 架 然 睛 園 仙

散柳

唐うら—星うそ葉比た—め山
格さき七峰ひよ葉うぬを本
しりみ葉もも柳りぬ柳りし
若うそめや七を解きさる柳子
霞をさる柳若うさる柳の中
よりとれをささき相りつ葉水
霞下うさるいよさる一葉う所
人きやね霞うさる一葉う所
相出と葉ひりりと柳のちうめ
さ出—さの口のひりりと相一葉
相ひと葉霞うさるのひりり
ささる今霞うさる今や相一葉

乙 柳
煙 柴
宇 山
文 化
文 外
芥 刪
吟 風
乙 松
乙 飯
素 二
佈

桐一葉

莊 柿

幼 嵐

泥柿やま麻糸以を影のり
まどをいひつと柿を原ら—り
あ、霞うさる—つと柳あら—
疎多し勝る—つと柳 嵐
ま柳—さるうさる柳を柳りし
秋葉生の霞うさる柳の中神を
葉中を葉て—さるまなり柳 嵐
日平—さるまなり柳を柳りし
時を柳 山ハ—さるまなり柳 嵐
虹の立山の柳り—さる柳 嵐
志う霞の中を霞うさる柳の中
は本戸中柳り—さる柳の中

共 仙
有 法
柳 霜
葉 前
旭 府
桂 岡
青 山
蓮 水
一 化
遠 裁
才 裁
可 寫

竜田姫

虫

鈴虫

空のや何そ種とて... 鈴虫の鳴き声... 鈴虫の鳴き声... 鈴虫の鳴き声...

山 木 枝 三 芳 光 二 精 法 燧 葉 露 葉 水

養虫 蟋蟀

養虫の鳴き声... 蟋蟀の鳴き声... 蟋蟀の鳴き声... 蟋蟀の鳴き声...

山 木 枝 三 芳 光 二 精 法 燧 葉 露 葉 水

書出

止々々々一物にれ珠あり喜至

書出 如 菜

促織

樂曲一子子魚了、ぬ 子松 沢
徑路やとと一ふささ六へ望まふ

若 馬 着

葉住虫

えささしや酒の酒くさふ珠くさ
引河や藤より住虫の時、のさる

有 吟 吟

蛸

藤の女坊 吟言々 あ中より秋
藤の女中 吟言々 信りやおもはる、

上 宇 山

蚤

細や細や 吟言々 月ゆふり
細や吟言々 出でる 五月 月

下 東 之

蝉

人言々 吟言々 吟言々 吟言々
蝉や月の吟言々 吟言々 吟言々

上 松 明 虫 吟

蜻蛉

蝉や豆虫一物にれ珠あり喜至
又も虫言々一もの場をんわんわん

下 吟 吟

秋の螢

あはれ秋の螢ををるの螢を
あはれ秋の螢ををるの螢を

上 自 吟 吟

秋の蝶

あはれ秋の蝶ををるの蝶を
あはれ秋の蝶ををるの蝶を

上 有 吟 吟

あはれ秋の蝶ををるの蝶を
あはれ秋の蝶ををるの蝶を

上 有 吟 吟

鳴子

燒帛

鳥劫

康

かーまふつくーいあるつめれ
諸へいふーのをいふ夕やー

弓より小舎い夫を引葉山子
世つてもよぬ年ーて里やー花

百年ーちるや竹より雁たると
当長赤くも嘆つてせや明を
りさるる音中比とふ竹を雁

燒帛のつれ鼻先や花より雲
燒帛や半平を康の又之は是

風平ー勤く女深くをさうー鳥劫
里村やまのまー年ーをとおー

若節や自分て新て降ーくさ

孤
角
紫
山

宇
山

吳
仙

桂
圃

桂
圃

素
山

秋の風

綱曳

尻舟のふとつと半りぬ田の若
星の半り舟のそーりや田のーり

古白の意ーう来りぬ康の考
入るる目又てまやまの荒

仕合平報を月ゆきー綱曳
船より小洒きくんや吹くー

花灯平ー秋風吹くや雪のそ
澄りー之吹さるまはー秋の風

流し着の粧を利りり流の風
秋風や藤目の野る晒ー布

小窓やそや秋風のつれをさる

半
批

秋
吟

二
文

綱
曳

道
水

曲
川

竹
合

新
菊

乙
瓶

秋の山

秋風や吹きて一丈たり波のうへ
 黄葉多かりを吹つけし秋の風
 秋風や吹きて波のうへ
 秋の山 蒼きうすうとそ深ある
 人亦のあはふ音あり 秋の山
 水底に輝りて光り 秋の山
 蒼きうすうとそ深ある 秋の山
 渚にうらうらと波の音あり 秋の山
 伍々たる山より源へ 秋の山

月 三友
 一高
 井重
 文
 山
 風
 下
 文
 下
 文
 下

秋の水

秋の鐘

秋の空

秋の雲

秋

秋の鐘 鐘の音あり 秋の鐘
 秋の空 空の音あり 秋の空
 秋の雲 雲の音あり 秋の雲
 秋の音 音の音あり 秋の音

鐘 三友
 秋 三友
 音 三友
 音 三友

待宵

待宵や川を 行かすて 枕をく

東山

待宵や待り 切を置くと 枕をき

橋

名月

名月や待を 待てり 枕を

待

名月や待り 枕をきくと 枕を

羽

名月や待り 枕をきくと 枕を

石

名月や待り 枕をきくと 枕を

待

名月や待り 枕をきくと 枕を

二

名月や待り 枕をきくと 枕を

二

名月や待り 枕をきくと 枕を

使

名月や待り 枕をきくと 枕を

似

名月や待り 枕をきくと 枕を

半

今日月

名月の晴きき少きまきま

竹

名月や待り 枕をきくと 枕を

山

月見

名月や待り 枕をきくと 枕を

山

待宵

待宵や川を流るる水は流るる

待宵

待宵や等々たる水は流るる

待宵

待宵や待り切るる水は流るる

待宵

名月

名月や待り切るる水は流るる

名月

今日の月

今日の月や待り切るる水は流るる

今日の月

月見

月見や待り切るる水は流るる

月見

月見や待り切るる水は流るる

月見

月見や待り切るる水は流るる

月見

月見や待り切るる水は流るる

月見

出されし月やきりきり星のほろろく
 白の月照す花をばそよよあき
 海はきりきり星をばそよよあき
 夕月や小唄をきりきり星をば
 月をばきりきり星をばそよよあき
 月をばきりきり星をばそよよあき
 月をばきりきり星をばそよよあき
 月をばきりきり星をばそよよあき
 月をばきりきり星をばそよよあき
 月をばきりきり星をばそよよあき
 月をばきりきり星をばそよよあき

大 毎
 一七 願 中
 下 十 積 山
 林 登
 幸 友
 三 友
 益 友
 福 友
 月 友
 山 友

十六夜

出されし月やきりきり星のほろろく
 白の月照す花をばそよよあき
 海はきりきり星をばそよよあき
 夕月や小唄をきりきり星をば
 月をばきりきり星をばそよよあき
 月をばきりきり星をばそよよあき
 月をばきりきり星をばそよよあき
 月をばきりきり星をばそよよあき
 月をばきりきり星をばそよよあき
 月をばきりきり星をばそよよあき
 月をばきりきり星をばそよよあき
 月をばきりきり星をばそよよあき

大 毎
 一七 願 中
 下 十 積 山
 林 登
 幸 友
 三 友
 益 友
 福 友
 月 友
 山 友

居待月

竹の春

後の月

言ふふふやふふふふふふふふふふふふふふふふ
 乃竹して月一をふふふふふふふふふふふふ
 二所ふふふふふふふふふふふふふふふふ
 出ふふふふふふふふふふふふふふふふ
 とき月と見ゆふふふふふふふふふふふ
 那ふふふふふふふふふふふふふふふふ
 月ふふふふふふふふふふふふふふふふ
 後世ふふふふふふふふふふふふふふふふ
 九月之部
 乃ふふふふふふふふふふふふふふふふ
 炭のふふふふふふふふふふふふふふふふ
 松栢を城してふふふふふふふふふふふふ

社登
 甘んき
 之か
 礎松
 秀巖
 痛了
 閑堂
 宇山
 東石
 社若
 法山

朝寒

味汁のふふふふふふふふふふふふふふふふ
 外あふふふふふふふふふふふふふふふふ
 としてふふふふふふふふふふふふふふふふ
 松栢を城してふふふふふふふふふふふふ
 人ふふふふふふふふふふふふふふふふ
 帆ふふふふふふふふふふふふふふふふ
 船ふふふふふふふふふふふふふふふふ
 船ふふふふふふふふふふふふふふふふ
 船ふふふふふふふふふふふふふふふふ
 船ふふふふふふふふふふふふふふふふ
 船ふふふふふふふふふふふふふふふふ

中川
 岷山
 天取
 一松
 紫園
 の結
 附後
 閑桑
 有研
 秋峰
 法身
 昭文

夜寒

静寂や眠りしむらゝり焼生草
飲室や山をぬきり日の霞をきり

一晴
押下
乙卯

肌寒

花とつらふしむらゝれと和室
赤根の葉をきりて霞に肌を

一也
薄花

夜長

肌をきりて肌をきりて
麻いそひと果をいふ

半松

赤き根をきりてす百の

煙柴

赤き根をきりてす百の

赤柴

赤き根をきりてす百の

赤柴

赤き根をきりてす百の

赤柴

水初回

赤き根の葉をきりてす百の

赤柴

赤き根の葉をきりてす百の

赤柴

赤き根の葉をきりてす百の

赤柴

秋沙

赤き根の葉をきりてす百の

赤柴

赤き根の葉をきりてす百の

赤柴

赤き根の葉をきりてす百の

赤柴

稲

赤き根の葉をきりてす百の

赤柴

赤き根の葉をきりてす百の

赤柴

赤き根の葉をきりてす百の

赤柴

赤き根の葉をきりてす百の

赤柴

赤き根の葉をきりてす百の

赤柴

福の出来ぬめく 高小登より 徳林

稻

芙蓉

桂

尾

尾

尾

尾

尾

尾

尾

尾

尾

尾

尾

尾

尾

尾

尾

尾

尾

尾

徳林

木 橙

持抄年一洗しん山やまゆり 松まつ茂しげ沖うち
お栗栗橙だいだい了りょう子この功こう者者尺尺松まつ茂しげ先先

月新
橘

芥カイ子コの詠エイ人ジン通ツウ木キ橙ダイダイの 仲ナカ

梨を
初月

花ハナ庭ニワのノ一イチ早サキりかカへヘるル木キ橙ダイダイの

石
石

口クチ麻アサのノ号ゴウさサいイ石イシまマまマてテ木キ橙ダイダイの

子
子

出デ張セウのノ松まつのノ枝エのノ木キ橙ダイダイの

得之
得

木 屏

約ヤクのノ葉エフ中ナカ木キ屏ビョウのノ多タ枝エのノ新シン

社身
社

赤アカもモ才サイたタれレふフ木キ屏ビョウのノ白シロ衣イのノ

逢月
逢

木キ屏ビョウのノ小コのノ木キのノ枝エのノ不フ知チりリ丸マル

枕仙
枕

里サトのノ木キのノ枝エのノ初ハツのノ新シン

文被
文

岩イハ實ミのノ枝エのノ木キのノ枝エのノ新シン

柱圖
柱

初紅葉

初紅葉の枝の初ハツのノ新シン

連山

おけりおすけるりををままるる松まつのノ枝エのノ新シン

宇山

おけりおすけるり松まつのノ枝エのノ新シン

孤身

おけりおすけるり松まつのノ枝エのノ新シン

舟者

おけりおすけるり松まつのノ枝エのノ新シン

楓林

おけりおすけるり松まつのノ枝エのノ新シン

竹取

おけりおすけるり松まつのノ枝エのノ新シン

秋夜

おけりおすけるり松まつのノ枝エのノ新シン

三夜

おけりおすけるり松まつのノ枝エのノ新シン

横字

おけりおすけるり松まつのノ枝エのノ新シン

地味

おけりおすけるり松まつのノ枝エのノ新シン

卷二

おけりおすけるり松まつのノ枝エのノ新シン

成雅

雁

野 合

雁の野合の枝の初ハツのノ新シン

秋夜

舞

あきつけりつてさけり
さし原の 陸まづしや
つりてくまのさし
乙方のゆり

乙 舞
中 山
松 雲

行乙鳥

あきつけりつてさけり
さし原の 陸まづしや
つりてくまのさし
乙方のゆり

舞 子
可 岩

渡鳥

あきつけりつてさけり
さし原の 陸まづしや
つりてくまのさし
乙方のゆり

舞 子
可 岩
梅 二
精 池
桂 園
附 院

掠鳥

あきつけりつてさけり
さし原の 陸まづしや
つりてくまのさし
乙方のゆり

乙 瓢
宇 山
舞 子
南 長

鮭

あきつけりつてさけり
さし原の 陸まづしや
つりてくまのさし
乙方のゆり

舞 子
東 池
連 水

下り鮎

あきつけりつてさけり
さし原の 陸まづしや
つりてくまのさし
乙方のゆり

舞 子
史 桑
宇 山

新米

あきつけりつてさけり
さし原の 陸まづしや
つりてくまのさし
乙方のゆり

舞 子
松 池
宇 山

焼米

焼米や里の心は新し〜
焼米や大弓のすゝを食の上
焼米や酒の清き神の梅

連水
南長
杉車

今年酒

夕暮の秋も思ふを六〜酒
夕〜酒の味をともお此を酒
夕〜酒ぬよ幸れ 晴の小粒は

吟風
杉車

砧

砧の月のかげに清く〜
阿〜の心をあ〜と 打
た〜て去〜を思ふ〜
少〜来〜を思ふ〜

杉車
有隣
杉車
白梅
竹枝

后彼岸

秋の里の志〜
ひ〜より 打〜
秋の里の志〜
ひ〜より 打〜

白梅
杉車

放生會

空の別〜
人〜き人〜
空の別〜
人〜き人〜

吟風
杉車

放生鳥

今秋〜
空〜
今秋〜
空〜

杉車
白梅

社
三反

家
学

赤
古

白
山

教
白

吟
風

杉
車

白
梅

竹
枝

祭

酒の多比とぬまき乳——里柴
秋子——下空久くそり餅の者
酒子——く飲ま臥きを——紫道

吹
す
白
き
一
冷

十月之部

十月

十月やあうをおさふ夜の澄る

カヒ
左
岳

神の孫

十月にお夜葉——一本平玉の河る

冷
紅

神の留守

降まきとてかきりあがりそ神の孫

連
白

神の留守

八雲しつり出せを神の留守に

二
林

神の留守

森平、森平神の留守をよ侍考

上
一
葉

神の留守

日の影をかきりてあろ——神の留守

一
葉

神の留守

日み——つをほほほほ——神の留守

竹
石

神の留守

何となく——ちまき物や——里林、系

ワ
環
海

御取越

空行好いそくそくそをそり——里汁、系

月
林

下り戸も影を照ふん汁、系、の夜

畏
依

虫と村を在具も——酒を——汁、系、吸

乙
山

夜合ふも久——き歌や所、歌、賦

共
仙

あつとまき——まうりや所、歌、賦

連
海

折當の物ももまわ——神、歌、賦

七
風

夜もたもた——光てふ——酒、日

弘
美

おろそろふおそくぬるや、節、日

角
三

そりくと、時、白、控——や、節、日

竹
石

たまげ、系、系、や、濁り、なき、母、の、津、守

可
怪

——久、昔、忌、や、あ、系、系、系、味

一
階

まを、系、系、系、系、系、系、系、系、系、系

系
系

芭蕉忌

翁の日

夷講

松さききりてよけと松よ 滝

十 白 陣

松若や、松の中も、松よ清

秋 峰

露 霜

露霜やちりけりて松よ、松よ

二 休

秋の霜

松さききりてよけと松よ 滝

二 休

霜時雨

松さききりてよけと松よ 滝

二 休

秋の暮

松さききりてよけと松よ 滝

二 休

色不變松

松さききりてよけと松よ 滝

松 宿

紅葉

松さききりてよけと松よ 滝

松 宿

ちとそを 行より 花は ちの 葉
 候て ちと 冬 年 にも あり 葉の 葉
 吹く 人も 何と やす けれ 葉の 葉
 吹く 人も やん にも あり 葉の 葉
 吹く 人も ね にも あり 葉の 葉
 い ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 葉の 葉 や 葉の 葉 ち ち ち ち ち
 きく の ち や 葉の 葉 ち ち ち ち ち
 む ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 葉の 葉 や 葉の 葉 ち ち ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

三五
 柳下
 弄山
 旭峰
 柳嶋
 里曉
 交之
 魯堂
 十花
 一池
 柳一
 丹壘

吾亦紅

楓 葉 年 一 葉 の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 葉 の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 吹く 人も 何と やす けれ 葉の 葉
 吹く 人も やん にも あり 葉の 葉
 吹く 人も ね にも あり 葉の 葉
 い ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 葉の 葉 や 葉の 葉 ち ち ち ち ち
 きく の ち や 葉の 葉 ち ち ち ち ち
 む ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 葉の 葉 や 葉の 葉 ち ち ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

蕎麦花

蕎麦 花 年 一 葉 の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 葉 の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 吹く 人も 何と やす けれ 葉の 葉
 吹く 人も やん にも あり 葉の 葉
 吹く 人も ね にも あり 葉の 葉
 い ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 葉の 葉 や 葉の 葉 ち ち ち ち ち
 きく の ち や 葉の 葉 ち ち ち ち ち
 む ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 葉の 葉 や 葉の 葉 ち ち ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

三五
 柳下
 弄山
 旭峰
 柳嶋
 里曉
 交之
 魯堂
 十花
 一池
 柳一
 丹壘

破世蕉

破りてくはるまのくはるまの道徳心

南天

蒲萄

破りてくはるまのくはるまの道徳心

松園

野の錦

破りてくはるまのくはるまの道徳心

天山

落し水

破りてくはるまのくはるまの道徳心

竹山

繪行器

破りてくはるまのくはるまの道徳心

五産

崔化 成蛤

破りてくはるまのくはるまの道徳心

松山

紅葉鮒

破りてくはるまのくはるまの道徳心

崎山

尾越鴨

破りてくはるまのくはるまの道徳心

道山

霜踏麻

破りてくはるまのくはるまの道徳心

無山

破りてくはるまのくはるまの道徳心

素山

行秋

沙を是て秋あり 岸のゆふの岸
麦の葉をすくく 小舟を秋のり
行秋のしほきみ ちん せきり
り秋や冷やしく あり夕のそ
月あそく ちんや 秋の ちんを
行秋のしほきみ ちんを せきり
嘆くしほきみ ちんを せきり
秋のしほきみ ちんを せきり
秋のしほきみ ちんを せきり
秋のしほきみ ちんを せきり

末石 貢 松 松 松 松 松 松 松 松 松

冬隣

嘆くしほきみ ちんを せきり
秋のしほきみ ちんを せきり

旭 山 山 山 山 山 山 山 山

十月之部

霜月

人叫ぶ霜月 岸のゆふの岸

明 河

初冬

霜月やのり 岸のゆふの岸

好 江

小春

初冬の中を 岸のゆふの岸

初 江

秋のしほきみ ちんを せきり

文 化

秋のしほきみ ちんを せきり

本 裁

秋のしほきみ ちんを せきり

地 味

秋のしほきみ ちんを せきり

地 味

秋のしほきみ ちんを せきり

乙 野

秋のしほきみ ちんを せきり

乙 野

初時雨

時雨

降道の秋花立り小春う神
 暑やうもほほととおもふも
 新さう起ててさう小春う紅
 障果一木の葉はうを福時
 初うれ星り晴るうとおもふ
 羨去ハ秋さうろり初うま
 知空の海子う人て初うれ
 けり第海てはさうさう時
 ときかーとれはうさう神うれ
 一のさうさうては舞ぬ小葉
 宿新のすめあうやううれ
 秋さうくを派うあう時うれ

十 庭 石 竹 聖 紫 菫 莖 外 月 宇 有 洲
 敵 山 雨 良 酒 陸 鳥 為 産 山 隣 池

一さうやうさうあうり佛道
 降ゆうのさうさう足うぬうま
 羨さうあうゆうさううまのあうま
 自うゆうのほをさうさううれ波
 近うけうゆうさう又さうさうゆ
 山の場う紅あうはさうさう
 初うさう一本さうゆゆうさう
 障さうさう時白てさうや本のさう
 空裂てさうさうさうさう夕時
 一さうやうのさうさうさうさう
 本さうさうさうありうさうの
 入ねゆゆうさうさうさうさう

尋 未 竹 翠 柳 柳 芳 桂 菫 魯 梅
 出 山 点 竹 依 下 文 前 圃 池 堂 病

布子

うしろのちをすのぬみくろくはれは
 鳥衣を着て蒸すはぬのぬのぬ
 此布子もてはゆる中種もゆるの衣
 テーしとある布子もてはゆる里の鳥
 何とあふかして着飾る中種も
 暖さうすは種のもてゆる中種も
 新うあふはゆるりもゆる中種も
 余月もすくはゆる中種もゆるみゆる
 流てあふゆる中種もゆる中種も
 余月もてはゆる中種もゆる中種も
 種中種もゆる中種もゆる中種も
 横柄中種もゆる中種もゆる中種も

余

扇
 雲
 晴
 社
 梅
 竹
 蓮
 浮
 竹
 松

頭巾

楯

内平をすくはゆる中種もゆる中種も
 和をすくはゆる中種もゆる中種も
 柘保をすくはゆる中種もゆる中種も
 燃を尻のぬぬをすくはゆる中種も
 必を尻のぬぬをすくはゆる中種も
 消を尻のぬぬをすくはゆる中種も
 携を尻のぬぬをすくはゆる中種も
 子を尻のぬぬをすくはゆる中種も
 籠を尻のぬぬをすくはゆる中種も
 背を尻のぬぬをすくはゆる中種も
 月を尻のぬぬをすくはゆる中種も

子燈芯

竹
 尋
 水
 春
 里
 羽
 竹
 芦
 有
 石
 花

山眠

石
 花

冬牡丹

却、風や軽淡かゝる山吹る
 雪を渡りゆく竹の音も、吹く山
 吹中にて冬の隙を不ふくれ
 冬木より着る積る光りけ
 庭に家山何不足あり
 下
 伊川
 風化
 一松
 雪所
 陶木
 杜若
 宇山
 出松

歸花

林林

春の

西月を望みよきと花帰るを
 林ありて、おどろくもや何と
 紫山やえんの末女のすげき
 雲のきくふ吹り帰る夕に花
 けいりつと仰向く、一也、何りき
 種ありて、あかきりや帰る葉
 又とをきき、せーりをかゝり、これ
 如き枝を、まろく、ゆりて、吟を
 白風の吹きて、まの、な、り、て、き
 試み、吹く、を、き、り、て、き
 急、吹、き、て、あ、か、き、り、や、ほ、く、き
 新、吹、き、て、あ、か、き、り、や、ほ、く、き

屏風
 三友
 淡衣
 才自
 葉返
 鶴文
 杜若
 陶木
 宇山
 出松

冬櫻

山吹

菊 枯

枯くもてさひくや百ふけくも
菊枯てさひくや百ふけくも
うき葉のさひくや百ふけくも

乙 瓶
信 山

蓮 枯

蓮うれて浮世の草と
蓮うれて浮世の草と
蓮うれて浮世の草と

二 休
宗 草

枯 野

枯野の草もあはれ
枯野の草もあはれ
枯野の草もあはれ

重 栢
三 友
法 山
静 山
乙 瓶

大根 夷

大根夷の草もあはれ
大根夷の草もあはれ
大根夷の草もあはれ

一 決
静 夕
信 人

麦 時

麦時や夕の草もあはれ
麦時や夕の草もあはれ
麦時や夕の草もあはれ

竹 壺
名 家
宇 山

鶯子鳴

春草を待つふふあり鶯啼の春
草を待つふふあり鶯啼の春
さし啼や鶯啼の春
さし啼や鶯啼の春
さし啼や鶯啼の春
さし啼や鶯啼の春
さし啼や鶯啼の春
さし啼や鶯啼の春
さし啼や鶯啼の春
さし啼や鶯啼の春

鶯
山
井
井
山
山
山
山
山
山

木兔

冬の鷹

木兔の鳴き声は冬に
木兔の鳴き声は冬に
木兔の鳴き声は冬に
木兔の鳴き声は冬に
木兔の鳴き声は冬に
木兔の鳴き声は冬に
木兔の鳴き声は冬に
木兔の鳴き声は冬に
木兔の鳴き声は冬に
木兔の鳴き声は冬に

木
山
山
山
山
山
山
山
山
山

鶺鴒

鶺鴒の鳴き声は冬に
鶺鴒の鳴き声は冬に
鶺鴒の鳴き声は冬に
鶺鴒の鳴き声は冬に
鶺鴒の鳴き声は冬に
鶺鴒の鳴き声は冬に
鶺鴒の鳴き声は冬に
鶺鴒の鳴き声は冬に
鶺鴒の鳴き声は冬に
鶺鴒の鳴き声は冬に

鶺
山
山
山
山
山
山
山
山
山

河豚

生海巖

祖格をいふ言を真言す。海龍の

竹良

男ふときと持てまなご生海龍

雪山

唯斯のすまをいふ言生海龍

一休

幸いのて海の中ふをいふ言

雪山

細代守

あふ業も守りまてれ一細代守

雪山

ひまふをいふ言一細代守

雪山

ふとをいふ言一細代守

雪山

羅

羅や母り業の体一極一飯

雪山

上をいふ言一羅

雪山

業もやりの言一羅

雪山

細

業もやりの言一羅

雪山

竹

竹の切をいふ言一竹

自省

水

水は切をいふ言一水

竹山

酒

酒は切をいふ言一酒

竹山

冬

冬は切をいふ言一冬

竹山

冬

冬の海

竹山

寒

寒は切をいふ言一寒

竹山

寒

寒は切をいふ言一寒

竹山

寒

寒は切をいふ言一寒

竹山

寒

寒は切をいふ言一寒

竹山

蘇子て氣上れ日なり非 枯圃
 家法て初平もひき 此考
 此より云い少て後様むをれ 子光
 此れをいめ出してあり 柘^{サカ}木
 蕙の点は二一はふりききう脚 頑山
 湯をよきそ桶のきすうをい 歌曰
 ありまえうしあ一すそをうれ 里晚
 出でんうき程をれとをいしはり 史原
 ありを和るの伽そり 冬 花 遠水
 あり花り伴の業を拈をり ありあ
 あり平と向の程もなれり 荳 荇
 ありとありすや小葉も折ありて 荻 栢

冬 籠

水 賦

下 葉

空を照くわとの世なり空にあり 後 月
 ありありと照るありてを 内 仙
 義 あり 袖ととと一あり冬 枕 水
 道徳ありありむつう一あり 掣 友
 月よりもいさきとありやあり 味 月
 ありありと照るありてを 三 友
 ありありと照るありてを 字 山
 ありありと照るありてを 音 音
 ありありと照るありてを 似 牛
 ありありと照るありてを 竹 入
 ありありと照るありてを 待 之
 ありありと照るありてを 文 外

冬の月

冬の雨

冬雨のふりぬものき月をわたり
雪出しくつりゆきや雪の白
華雪のふりぬふや雪の白
雪ふぬとも雪あまき雪の白
突あき雪の白ゆきや雪の白
雪ふりぬとも雪あまき雪の白
風雪へとも雪ふりぬ雪の白
雪ふりぬとも雪あまき雪の白
雪ふりぬとも雪あまき雪の白
雪ふりぬとも雪あまき雪の白
雪ふりぬとも雪あまき雪の白

一 於
二 高
史 聚
五 天
竹 産
積 宿
完 和
吳 心
頂

冬

冬

干菜

冬干菜の味は切志す
冬干菜の味は切志す
冬干菜の味は切志す
冬干菜の味は切志す
冬干菜の味は切志す
冬干菜の味は切志す
冬干菜の味は切志す
冬干菜の味は切志す
冬干菜の味は切志す
冬干菜の味は切志す

一 於
二 高
史 聚
五 天
竹 産
積 宿
完 和
吳 心
頂

風呂吹

納豆
鉢

風呂吹の味は切志す
納豆の味は切志す
鉢の味は切志す
風呂吹の味は切志す
納豆の味は切志す
鉢の味は切志す
風呂吹の味は切志す
納豆の味は切志す
鉢の味は切志す
風呂吹の味は切志す

朴 周
味 月
竹 文
竹 産
月 輪
精 佳
秀 産
洲 山
松 山
竹 産
宇 山

十二月之部

師走

隙外身内以中... 以是如師走也

痛楚可... 多者師走也

轉之... 師走也

此... 師走也

意... 師走也

瑞... 師走也

晚... 師走也

冬至

意... 冬至也

冬至極

意... 冬至極也

臘八

瑞... 臘八也

初霜

瑞... 初霜也

霜

瑞... 霜也

瑞... 霜也

瑞... 霜也

雲

霰

雲をきくやのそをきくはくは
 油菜菜菜年頃とやうに雲の影
 降淡や雪の中まよひのむね
 雲あふく心まくの雲のつら
 雲くくく雲の雪の降るは
 半椽年々それとくや影中ま
 巧く降のありてなきりや雲降る
 不々をうくく雲あふくそれ
 暗くくや影中まよひの降るは
 雲の影中まよひの降るは
 そまの雲中まよひの降るは
 あく雲中まよひの降るは

一竹
 旭味
 採山
 竹今
 澤院
 杜若
 玉葱
 外務
 身去
 中月
 瓦全
 可然

脛

戰

初氷

重くくく心まくの雲の影
 年をもちり候もあうて初氷
 雲中まよひの降るは
 脛の影中まよひの降るは
 口口口口口口口口口口
 脛の影中まよひの降るは
 戦りの中まよひの降るは
 初氷の中まよひの降るは
 初氷の中まよひの降るは
 初氷の中まよひの降るは

一竹
 旭味
 採山
 竹今
 澤院
 杜若
 玉葱
 外務
 身去
 中月
 瓦全
 可然

氷

眼平ふきくすまのゆめゆめ
 一つこもてはつら氷る木の家
 ちりくとうつる町氷る水田の畔
 跡さやま山すの 澄 氷 石
 糸り棒て氷りつる氷の棒
 ひと夜をとおも一ぬ木とや厚氷
 多心や新く一もく木とや山
 氷仙や山五深りの澄 氷 石
 氷仙や山如てきり氷く一き
 氷仙や山和底の異 氷 石
 氷仙や山まきり氷く一氷心
 氷仙や山まきり氷く一氷心

探山 伴良 梅家 華道 孝之 舟心 舟心 一身 一晴 舟心 畏候 舟心 探山

水仙

八手の花

冬の梅

冬椿

花すふとの咲ひるもふ一も仙古
 正心もふく咲りるくも一仙古
 木と棒の何ふ一もけくぬいふ
 木ありとくを おもきけふの梅
 人をこれ風もいふふ一冬の梅
 冬の梅風もふくも一冬の梅
 香るさりのける木や冬の梅
 人よりも過ぎ音もや 冬 椿
 木く咲る冬平 冬一 椿
 探洞 木一 木ふり 木をく 椿
 風より平 己り 木をく 椿
 十たり 木をく 木をく 椿

二休 以松 探山 舟心 舟心 舟心 舟心 舟心 舟心 舟心 舟心 舟心 舟心

鶯

鶯子ては咲茶へ中玉梅
ぬくくとも葉中をさすを
鶯重もかゝらぬもの花を
志す鶯のそひゆるくくや
そは鶯の相伝ふに似す
鶯重や踏出てくくを
満すそをくくも通さぬ
鶯の夕アまをさす時
鶯のやゆ子かきさるる
鶯のや百の早りの
これなくのをさす
ぬくぬくをさす

東山 柳山 鶯文 東山 竹中 杜若 紅雲 竹中 杜若 紅雲

鳥

鳥叫
鶯の夕アまをさす時
鶯のやゆ子かきさるる
鶯のや百の早りの
これなくのをさす
ぬくぬくをさす

杜若 紅雲 竹中 杜若 紅雲

暖鳥

力州

鯨突

藥喰

煮凝

吉曆

八

力州
ぬけ出るとあまの根
ぬくけとあまの根
ぬくけとあまの根
ぬくけとあまの根
ぬくけとあまの根

吉仙 吉仙 吉仙 吉仙 吉仙

柳山 柳山 柳山 柳山 柳山

有佳 有佳 有佳 有佳 有佳

吹風 吹風 吹風 吹風 吹風

吹風 吹風 吹風 吹風 吹風

吹風 吹風 吹風 吹風 吹風

年水

新才第小を本より本本

示教

とく向けを積りも不^レなる本

浄水

越よめとく^レ年^レ重積む^レ本

子丸

年月意

垣城^レの材心と名れ^レる^レ年用意

連水

権^レある^レや^レまの^レ用^レ意^レ野^一羽

吉月

飾松賣

買^レま^レつ^レす^レ以^レて^レゆ^レ本^レ飾^レり^レ松

耐山

そ^レく^レま^レす^レく^レふ^レ産^レも^レや^レ積^レり^レ松

砂壺

の^レ松^レを^レと^レち^レ出^レる^レ名^レま^レる^レ年^レ用^レ意

系山

年の坂

買^レま^レす^レく^レふ^レ産^レも^レや^レ積^レり^レ松

南

を^レ至^レり^レり^レ積^レり^レと^レけ^レり^レ年^レ用^レ意

新車

皆^レ年^レの^レ月^レの^レ意^レも^レ年^レの^レ坂

吉

聖^レの^レ年^レ向^レく^レふ^レく^レ年^レの^レ坂

吉

年の関

あふん紙はくそくりそりよの英
人のほ米とりの味と名えそるく

吟風

年波

かきそりつきをあゆみよの波
さびの浪色をまじり 糸きり

可水

行年

けいそきけりそりそを車しそり
けとりの積りそりや鐘一屋

下有竹

大年

たいせいの海もつらつらひひ
大年の光線もそりそりそり

静翁

年の暮

としごころあそりそりそりそり
想板の音もそりそりそり

大坂 泉 志

きりそりそりそりそりそり

鶴 苗

月影の光もそりそりそりそり

竹 良

大二十日

あふんありそりそりそりそり
不足ありそりそりそりそり

地 南

大二十日 けりそりそりそりそり

江

あふんそりそりそりそりそり

山

市人そりそりそりそりそり

地

除夜

あふんそりそりそりそりそり
伸きそりそりそりそりそり

可 洗

人れそりそりそりそりそり

神 松

物名そりそりそりそりそり

お 我

新よりそりそりそりそりそり

山

神祇

神釋總無常人名祝手向送別名所地名之部

粉ひや神田奈りの 註田 唯

吹込しや 経達しも 花より和登

夕ころ ぼくや 養の痛へこころを

新ししと ねの 養や 計り色

新来の けし けし けし

けし けし けし けし

ホ 裁

三 友

上 赤

雪 喘

百 治

宇 山

弘 貴

ホ 裁

二 休

伊勢皇廟

芝大禮營

北野天神

あさきと 津 なる ぶき 梅 の 是

まやし 子 の 神 の 白 ふ や 津 の 梅

まの う き せ せ せ 梅 の 是

むし ね の も さ れ 下 明 ら 言 居 け

久し ぶ き と せ け け 梅 の 是

味 を く や 津 糸 の 室 の 百 子 是

経 達 飾 し ぶ 形 の 中 し 社 乃 耶

子 取 り 出 り し 志 の ぶ 矢 口 丸 是

内 外 不 一 あ し ぶ 出 や 小 葉 極

ま ー ぶ 木 乃 也 あ し せ 極 小

伴 舟 舳 小 形 し 志 乃 上 蓮 丸 是

舟 の 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃 志

弄 心

津 了

派 海

室 咳

三 山

三 山

三 山

百 水

成 赤

成 赤

雨 後

義仲寺

重安寺

圓分寺

西ヶ原

泉岳寺

龍谷寺

佛經寺

戀

北田川

神立て斜干てし草葉うれ

床去きをうけし草葉うれ

春風の紀子ちうれ枝の伸

みづの枝の葉はうれ一冒れち

をくむう外せううを葉を指

以て珠物よりえて高麗てえおれ

月を一河る松風波のさる

わたりまに葉もまじりひり

葉の枝やこゝろの外にぬり格

理すやおむひの父をいそぬ意

神のまう踏る余り別れりれ

白陳

水

抱

月

園

木

葉

葉

弘

和

系

しるしをうけし草葉うれ

日ありし草葉うれ

枝のまや影をうけし草葉うれ

梅をうけし草葉うれ

まじりあし草葉うれ

春をうけし草葉うれ

春をうけし草葉うれ

春をうけし草葉うれ

春をうけし草葉うれ

春をうけし草葉うれ

春をうけし草葉うれ

草

葉

雨

山

松

水

平

山

山

山

山

隅田川

無常邊

富士

大坂

大坂

大坂

牛馬 牛馬の身を... 柳の葉
 不忍 不忍を... 柳の葉
 入谷 入谷の... 柳の葉
 小梅 小梅の... 柳の葉
 佃浦 佃浦の... 柳の葉
 木母寺 木母寺の... 柳の葉
 王子 王子の... 柳の葉
 飛鳥山 飛鳥山の... 柳の葉
 浅草 浅草の... 柳の葉
 寛りれ... 柳の葉

霞ヶ関 霞ヶ関の... 柳の葉
 芝公園 芝公園の... 柳の葉
 日本橋 日本橋の... 柳の葉
 蒲田 蒲田の... 柳の葉
 芳野 芳野の... 柳の葉
 西行菴 西行菴の... 柳の葉
 嵐山 嵐山の... 柳の葉
 官鶯 官鶯の... 柳の葉
 錦帯橋 錦帯橋の... 柳の葉
 明石 明石の... 柳の葉

源 六 去通るをち他より入るべし 源六の浦 吟 風

鳴 戸 次六でつーいふを明るて又もす 吟 風

大樞川 其ふれや海を海とて信りて 吟 風

三見蒲 其しをを海よりふよ 吟 風

天拜山 岩く息り岸よりやちらん 吟 風

洛 中 其柳中梅はかつくの 吟 風

清 水 株の午信よりよきめ各思 吟 風

宇 洛 舞臺破むひりその 吟 風

高 雄 海もその 吟 風

萬 原 其もその 吟 風

月の瀬 かくてを梅新し 吟 風

岡本梅林 かくてを梅新し 吟 風

洛 中 吟 風

竹生島 吟 風

日 枝 吟 風

養 老 吟 風

森物語 吟 風

星 崎 吟 風

今切吉蘭 吟 風

濱 松 吟 風

光明山

同奥院

大井川

赤夜山

讚名橋

宇津山

庄原平阪

久能山

熱海

箱根

赤山のてらにありて、

杉むらの里やまを、

川をりしをくく、

そのつらや、

らまを、

橋す、

汐子、

原の志、

渡あり、

山百、

可

出

川

江

木

山

道

音

三

山

宮の下
 井の湯
 小田原
 江の島
 本牧
 大森沖
 武玉川
 小金井

鳴、
 芝、
 黄、
 岩、
 夏、
 都、
 人、
 菜、
 涼、
 武、
 武、
 小、

明
 成
 之
 史
 、
 、
 三
 素
 朴
 井
 尋
 成

中井を月も依りて 梅の井 抱法

ふゆを度りて 子のささり 隠

尾山 眼のくく之尔よ 梅の夕吹 出圃

小向井 梅のよ 友のささり 梅のよ 吹今

若くは 水のささり 梅のよ 宇山

堀切 兄菜を や 熱不中りの 吾岩 宇山

ゆうつり けり 雲の けやめり 卵 小沙

紅葉館 梅の風 梅のり 雲や 友生 大原 尔志

宿菜の やり 友の 友 今山

秋色櫻 井の 雲を ささり 友の 友 然年

笹子峠 友の 雲を ささり 友の 友 胸海

春の 味あり 一 耳画

桃林橋 梅の 子 友の 友の 友 才拙

館村邊水 早の 友の 友の 友の 友 永柳

筑波山 雲の 友の 友の 友の 友 乙瓶

印幡沼 洋の 友の 友の 友の 友 和斎

小湊 舟の 友の 友の 友の 友 梅斎

安房 小湊や 船の 友の 友の 友 津江

清澄山 舟の 友の 友の 友の 友 赤杉

鉦子濱 舟の 友の 友の 友の 友 友杉

北越山中 舟の 友の 友の 友の 友 地扇

金華山 舟の 友の 友の 友の 友 赤杉

王政復古 舟の 友の 友の 友の 友 由奈

朝旨奉戴 舟の 友の 友の 友の 友 連水

神武天皇

右大將 賴朝

楠公

平相國

清磨

常盤御前

武田信玄

熊谷直実

張良

玄徳房

孔明之盧

小野小町

あはれをなすてしやりのまゝ

あまのよかけの松ありやう

さうしあふふふふふふふふ

あはれをなすてしやりのまゝ

あまのよかけの松ありやう

さうしあふふふふふふふふ

あはれをなすてしやりのまゝ

あまのよかけの松ありやう

さうしあふふふふふふふふ

あはれをなすてしやりのまゝ

あまのよかけの松ありやう

さうしあふふふふふふふふ

十班

清耳

連水

然

身

清耳

清耳

清耳

清耳

清耳

清耳

清耳

題卷名

平陸川

風花四

高小

祝

自悟

聞馬有感

雪中早梅

時雨會

年賀

あはれをなすてしやりのまゝ

あまのよかけの松ありやう

さうしあふふふふふふふふ

あはれをなすてしやりのまゝ

あまのよかけの松ありやう

さうしあふふふふふふふふ

あはれをなすてしやりのまゝ

あまのよかけの松ありやう

さうしあふふふふふふふふ

あはれをなすてしやりのまゝ

あまのよかけの松ありやう

さうしあふふふふふふふふ

蓮宇

燈池

上

意

意

意

意

意

意

意

意

意

送別

旧郷へ歸
ルコ送ル
追憶

ふるやとての春海もこころ持
十のりりやをこころのれは初の中
くすも〜 春風もよき 春風もよき
梅もよき新し〜 春風もよき 梅の上へ枝
まゝふふ木ふふや梅の頃ちうら
風の子はむの〜 春風もよき 几中
黄もや 梅もよき 春風もよき
紅も〜 春風もよき 春風もよき
夕月の雲もよき 秋風
飾もよき 緑もよき 春風
吹衣もよき 春風もよき 春風
春風もよき 春風もよき 春風

石芝
仙舟
春山
有哉
弘良
芦城
三島
香山
西京
芹舎
五川

緑毛ノ亀
又得文ニ

追加混題

春風もよき 春風もよき 春風
梅もよき 春風もよき 春風
夕月の雲もよき 秋風
飾もよき 緑もよき 春風
吹衣もよき 春風もよき 春風
春風もよき 春風もよき 春風

春山
香山
三島
芦城
弘良
有哉
春山
仙舟
石芝

博平の鳴き声もきれまひも
 よしと鳴けをりあひあひ鳴れ
 こゝろと仲まらむ 可なり
 鳴りたる松の鳴をりゆとりりれ
 昔よりうらやまのさやむりぬ
 何ゆ平ちうらやまの深草の
 よいぬきぬてはゆりゆり
 目下して又あけり松の柳をり
 きの啼くうらやまのゆりぬ
 音あそびやうらやまの二つ三つ
 泣きたる松の鳴をりゆりぬ
 名もせぬ松の鳴をりゆりぬ

雀志
 松谷
 幹史
 針松
 沃子
 子代子
 洗玉
 以新
 幸女
 松島
 類山

松杉の吸きくもきけ山は
 松ふもまをりゆりぬ
 掃りけりゆりぬ
 宿とれたきゆりぬ
 松島のまをりゆりぬ
 涼しいやゆりぬ
 松島のまをりゆりぬ
 早起の松をりゆりぬ
 松島のまをりゆりぬ
 川舟やゆりぬ
 松島のまをりゆりぬ

松島
 南島
 松谷
 松島
 松島
 松島
 松島
 松島
 松島
 松島

春のさかへとほろろと春言や松り世
 紅顔や猿子もあつてはひとふらぬ
 際、座の香子も存く。髪、ふらぬ
 厚敷け小をねと、膝もまは月の日
 世ひ人のいつよりはや、神々し
 波、くひと春、や、起、り、岸
 なすめうぬ、色や、春、葉の、垣、隔り
 ひと、株の、葉、も、心、志、も、秋、の色
 あそふ、ま、ぬ、浦、の、軍、手、や、赤、り、鐘
 海、貴、ひの、松、灯、も、る、霜、花、も、れ
 風、を、思、ふ、庭、木、も、な、く、て、泊、りの、ふ
 水、香、り、や、波、の、と、つ、の、洗、ひ、の、の

注 雅
 欠 初
 欠 幽
 素 末
 株 石
 株 丹
 対 几
 守 不
 松 石
 夏 初
 紅 首
 貞 幽

初めとて、春、を、春、の、保、を、松、り、世
 分別のつ、ち、春、の、情、も
 眼、子、を、一、途、一、山、松、の、玉、巻
 山、の、足、は、吹、ひ、を、れ、雪、の、初、白、け
 小、庭、の、ま、ま、あ、の、中、に、枯、る、も
 隔、を、き、中、の、う、き、一、き、月、も、心
 煮、一、き、ぬ、て、乳、を、を、り、雪、を、り
 初、白、り、も、ま、あ、あ、り、一、株、丹、小
 春、の、さ、か、へ、と、ほ、ろ、ろ、と、春、言、や、松、り、世
 中、庭、下、や、小、庭、の、心、ま、き、り
 春、の、月、の、清、く、り、あ、る、ぬ、料、心

草 村
 素 末
 美 邦
 佳 玉
 業 氣
 法 雅
 解 月
 里 得
 峰 石
 仙 台
 以 二
 三 右

明治廿一年九月廿日 印刷
同廿一年十月九日 出版

東京府平民

編輯者 間宮宇山

日本橋區上槇甲
二番地

同府平民

發行者 伊豆田富太郎

京橋區南傳馬町
貳丁目八番地

印刷者 宮田龜吉

小石川區小日向水道
町六十六番地

大販賣

日本橋區藥師堀町甲五番地
鈴木喜右衛門

東京書林

須原屋茂兵衛
大倉孫兵衛
上田屋榮次郎
和田德太郎
兔屋誠
辻岡文助
山口屋藤兵衛
小林喜右衛門
別所平七
森仙吉
山城屋佐兵衛
村上真助

東京

吉川半七
桂月堂藤一郎
扇面亭萬助
松壽堂愛親
松成堂伊三郎
高見屋甚左門
藤屋直次郎
樋口屋小左門
龍田屋萬助
細間重吉
多田屋嘉右門
手塚祐治郎

信州 越後

會津
箱館
上総
下野



911.3

サ